

FARO 参加報告

(独立行政法人国立病院機構 栃木医療センター 放射線科 村上 恵理)

このたび JAWRO の助成事業にご採択いただき、インドネシア・バリで開催された FARO meeting に参加してまいりましたのでご報告させていただきます。FARO はアジアの 12 か国が参加する組織で、今年は京都、インドに続く第 3 回目の学術大会となります。

私は以前大学病院に勤務していましたが、現在は地方の市中病院で臨床に従事しており、放射線治療の臨床研究や基礎研究に関わる機会がほとんどありません。そんな私にとって、今回の FARO は記念すべき初の国際学会への参加となりました。FARO 参加のきっかけは、海外広報担当の川村先生から、JAWRO 会員向けに FARO 参加へのお誘いメールが送られてきたことです。川村先生の魅力的なメールに、世界有数のリゾート地バリで開催される学会を、JAWRO の先生方とぜひ一緒させていただきたい！という気持ちが大きくふくらみました。しかしながら通常の国内学会と違い、単なる学会参加のみでは、職場や家族への言い訳がたちません。何としても演題登録が必須であります。ところで私は医師になる前、文学部・教育学部の 2 学部を卒業しています。この 3 年ほどは、以前から関心があった医療倫理学や死生学教育に関する共同研究に関わっています。以前 JAWRO で講演をお願いした宇都宮大学の山田有希子准教授を中心とした哲学・倫理学や法学、教育学研究者の先生方との共同研究です。決して放射線治療の王道とは言えない研究内容に、自治医大の若月教授が背中を押してくださり、今回 FARO では小中学生およびその保護者を対象とした死生学教育に関する演題登録をすることにしました。参加費用の面では完全自腹を覚悟していたのですが、事務局の伊井先生から JAWRO の助成事業への応募をおすすめいただきました。今回の発表内容に対し、助成事業のご採択をいただいたことは誠にありがたく、光栄です。

FARO から演題採択の連絡も無事届き、その上 JAWRO からの助成をいただくことが決まり、準備万端いよいよ出発、と思いきや、日本ではおりしも台風 21 号が西日本に記録的な被害をもたらし、関空は閉鎖に追い込まれました。関東や成田空港は幸い大きな被害を免れましたが、西日本は本当に大変な状況でした。伊井先生、川村先生は出発便の成田変更を余儀なくされ、過酷なスケジュールでのご参加となりました。そんな日本を出発し一転、リゾート感満載のバリへ。私にとっては 10 数年ぶりの海外、初めての地です。空港で荷物を受け取るまでに 2 時間を要しましたが、これもバリ時間というものでしょうか。

到着翌日からはいよいよ学術大会が始まります。今回の学術大会は参加国数 27、演題は 185 を超える登録数があり、過去 2 回を上回る参加者数であったとのこ

とです。会場にはインドネシアの民族衣装を着た現地の先生方やスタッフの方々、色とりどりの各国の衣装、サリーやヒジャブを身にまとった参加者をあちこちで目にすることができ、アジアでの国際学会に参加している気分がいやが上にも高まります。オープニングでは、バリ舞踊や伝統的な楽器による生演奏などが披露され、非常にウェルカミングで華やかな雰囲気でした。

学会での内容を全体的にみると、口演・ポスターともに、頭頸部がん、乳がん、子宮頸がんなどの演題が多い印象でした。他のがんについてももちろんですが、アジアに共通して多いこれらのがんについて、日本国内にとどまらず、より広い地域での知識・経験の共有化、また医療水準や設備の均てん化を、各国が協力して今後もすすめていく必要があると改めて感じました。そのためにも、こうした学会への積極的な参加や海外の先生方との草の根レベルでの交流がますます望まれると思います。オーラルでの英語に引け目を感じる先生方もいらっしゃるかもしれませんが、FARO ではほとんどの参加者が非ネイティブであり、その点での肩身の狭さを感じることはありませんでした。またこの会場も全体的に非常にあたたかで和やかな雰囲気でした。国際学会へのデビューを考えていらっしゃる先生方にはうってつけの学会だと思います。

口演は事前に時間と場所が決まっているようでしたが、ポスターに関しては発表の日には直前に分かっていたものの、発表時間は当日まで詳細が分からないままでした。そのあたりも FARO のおおらかな雰囲気が感じられるところです。私は「Death education for children-based on oncology and ethics」という演題でポスター発表をしまいりました。私たちが取り組んでいる若年者に対する死生学教育プログラムの一環で、この夏「とちぎ子どもの未来創造大学」の1講座として開講された小中学生向け死生学教育講座（講座名：「お医者さんといっしょに、親子で考える『生・老・病・死』～自分らしく生きるために～」）について主にご紹介してきました。人間が避けられない老い、がんなどの病、そして死や死にまつわる文化の歴史について知り、考えることで、「生きるとは何か」を参加者みんなで問い直そうという試みです。幸い英語でのプレゼンテーションも大きな事故なく(?) 終えることができました。ポスターを審査してくださった先生からはあたたかく示唆に富む質問をいくつかいただきました。また内容に興味を持ってくださったタイやインドネシアの先生方からも声をかけていただき、今後の研究継続へのモチベーションがますます高まりました。

2日目夜のカルチュラルナイトは、リゾートホテルのプライベートビーチでのパーティ！一般市民にとってこんな機会はなかなかありません。今回の大会長であるインドネシアの Soehartati 教授自らバリ舞踊を披露されるなど、内容も盛りだくさんでした。3日間の会期を終えた後は、絶景のバーでインド洋の美しいサンセットを楽しみ、(空港でのハプニングがあったものの)最後は大きな安堵

感と充実感を胸にバリを後にしました。今回の FARO はインドネシアのおもてなし精神がいかに発揮された会であったと思います。今後の FARO も学术交流、文化交流、また各国のメンバー同士の交流がますます活発になることでしょう。次回は中国での開催だそうです。

今回 FARO に参加し、英語でのポスター発表はじめいくつもの貴重な経験をさせていただきましたが、何より JAWRO のお二人の先生方と一緒に時間を過ごさせていただいたことが本当に素敵な思い出となりました。伊井先生も川村先生も、JASTRO の中心で活躍されている、今日の日本における放射線治療のリーダー的存在であり、私のような地方の一臨床医が一緒にさせていただける機会は JAWRO での活動を除いてなかなか得られないものです。(JAWRO はスターの先生方ばかりではなく、私のような人間も受け入れていただいていますので、放射線治療に関わる女性の先生方にはぜひ入会・活動を広くおすすめしたいです!) 今回、夢のようなバリの景色と空気の中で、キャリアについてだけでなく、家庭・パーソナルなことなど、いろいろな話をさせていただきました。本当に得難い時間を過ごし、明日からも心機一転頑張ろうと決意を新たにした 5 日間でした。

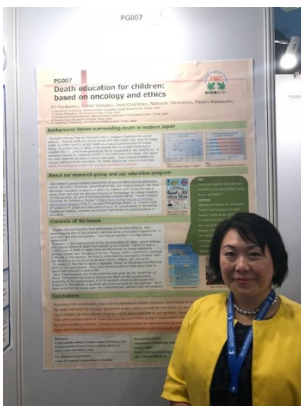
今回このような機会を与えてくださった JAWRO の先生方、皆様に心より御礼申し上げます。このたびのきっかけを作ってください、非常に楽しい(時に波乱もあった) 5 日間を一緒にさせていただいた伊井先生、川村先生。一生思い出に残る貴重な経験を共有させていただき、本当にありがとうございました。この助成事業が今後も有効に活用されますことをお祈り申し上げます。

また今回快く送り出してくれた当院放射線治療部スタッフ、日頃より(放射線治療の王道とは外れ気味な)私の活動を好意的に受け入れていただき、背中を押してご指導ご支援くださった自治医大の若月教授にもこの場をお借りして感謝申し上げます。

調子に乗って、次は目指せ ASTRO! ?



- (1) 学会会場のヌサドゥア・コンベンション・センター前にて、川村先生と。
(2) プライベートビーチでのカルチュラルナイトの様子。
(3) Soehartati 教授自らバリ舞踊を披露！他にも各国の先生方が多彩な芸を披露されていました。



(4) ポスター会場にて。



- (5) 伊井先生、川村先生と楽しいランチのひとつ。
(6) インド洋のサンセット。素晴らしかったです。